



Oracle Data Safe - よくある質問

Oracle Data Safeは、Oracle CloudデータベースとOracle オンプレミス・データベースの両方のための、Oracle Cloudのデータベース・セキュリティを管理するための統合コントロール・センターです。Data Safeが提供する統合された機能一式により、データの機密性の把握、データのリスク評価、機密データのマスキング、セキュリティ制御の実装と監視、ユーザー・セキュリティの評価、ユーザー・アクティビティの監視、データ・セキュリティ・コンプライアンス要件への対処が可能になります。

よくある質問

Oracle Data Safeについて	2
このクラウド・サービスはなぜ重要なのですか。	2
Oracle Data Safeを使用するとどのような問題に対処できますか。	2
Oracle Data Safeにはどのような機能が搭載されていますか。	3
Oracle Data Safeではどのようなユーザー・エクスペリエンスが提供されますか。	4
Oracle Data Safeを使用してGDPRなどのコンプライアンス規則を遵守できますか。	4
クラウド・データベースの顧客にとって、Oracle Data Safeの利点は何ですか。	4
可用性	4
Oracle Data Safeはどの地域で利用できますか。	4
Data SafeはAutonomous Databaseがサポートされているすべての地域で利用できます。	4
どのタイプのOracle Databasesがサポートされますか。	5
オンプレミス・データベースにOracle Data Safeを使用できますか。	5
はい。オンプレミス・データベースのサポートを2020年の半ばに追加しました。	5
Oracle Data SafeはCloud at Customerデータベース・デプロイメントに使用できますか。	5
Oracle Cloud Infrastructure (OCI) の無料トライアル・アカウントでOracle Data Safeは利用できますか。	5
開始するには	5
どのように使用を開始できるか教えてください。	5
Oracle Data Safeを使用する管理者はどのような種類のトレーニングを受ける必要がありますか。	5
Oracle Data Safeの使用	6
Oracle Data Safeを使用する上でのセキュリティの考慮事項を教えてください。	6
Oracle Data SafeがOracle Cloudデータベースのサブスクリプションに含まれているとはどういう意味ですか。	6
監査データの保存方針を教えてください。	6
どのようにOracle Data Safeのサポートを受けることができるか教えてください。	6
詳細情報	7

Oracle Data Safeについて

このクラウド・サービスはなぜ重要なのですか。

Oracle Data Safeは、Oracle Cloudデータベースだけでなく、Oracleオンプレミス・データベースもサポートしています。オンプレミスのデータベースを使用している場合でも、クラウドのデータベースを使用している場合でも、DBAは管理下にある企業データを保護するための措置を講じる必要があります。

Oracle Database Cloud Serviceでは、データベース・タイプとエディションに応じて、さまざまなセキュリティ機能一式が提供されます。Oracle Autonomous Databaseを使用すると、お客様が抱える以下のような数多くのセキュリティ考慮事項が自動的に対処されます。

- ネットワークのセキュリティと監視
- OSおよびプラットフォームのセキュリティ
- データベースのパッチ適用とアップグレード
- 管理上の職務分離
- データ暗号化のデフォルトでの有効化

しかし、クラウドであっても、セキュリティはプロバイダとユーザーの共有責任であり、ユーザーは依然として次に挙げるような事柄を管理する必要があります。

- データベースとデータ・セキュリティのさらなる制御
- ユーザー・アカウントとその関連リスク
- 機密データの特定と把握
- 適切なレベルでデータを保護するための管理機能の実装
- ユーザー・アクティビティの監査、他

Oracle Data Safeは、クラウドベースのコントロール・センターを介してあらゆるOracle Cloud顧客がアクセスできる、統合されたデータ・セキュリティ機能でこれに対処します。Oracle Data Safeにより、ユーザー、データ、およびデータ・インフラストラクチャに関する情報が結合されるため、ユーザーは機密データに対するリスクを管理できます。

Oracle Data Safeを使用するとどのような問題に対処できますか。

エンタープライズ・データを保護するには、以下をはじめとする数多くの質問に回答できる必要があります。

- セキュリティとユーザー評価
 - 使用しているデータベースはセキュアに構成されているか
 - データベースにとってリスクを引き起こす可能性のある高い権限のアカウントを持っているか
 - 構成に関する戦略に不備があるか
 - そのような不備を補うことができる最適な方法は何か
- 機密データ・リカバリ
 - どのような種類の機密データがあるか
 - このデータベースにはどの程度の量の機密データが保存されているか

- 機密データはどこに保存されているか
- データ保護
 - 機密データを人目にさらさずに、どのように効率的にテスト、開発、分析をサポートできるか
- 監査
 - 個々のサーバーから収集した監査データをどのように管理すればよいか
 - どのように監査データを一元管理し、レポート作成とイベントの相関性を簡素化できるか
 - 不適切なユーザー・アクティビティの通知をどのように受け取ることができるか

Oracle Data Safeにはどのような機能が搭載されていますか。

Data Safeを使用すると、データベースとデータベース・ユーザーのセキュリティ評価とユーザー評価を実行できます

- セキュリティ評価では、お客様はセキュリティ基準を作成して維持できます。これにより、構成上のリスクを迅速に特定でき、企業全体でセキュリティ制御が確実に行われるようにすることができます
- ユーザー評価では、ユーザーのリスク・プロファイルを把握できます。必要以上の権限を持つユーザーは、サイバー攻撃の標的になり、そのような広範な権限が、データ攻撃を埋め込むために利用されることが多くあります

Data Safeにより、データベース・サーバー監査ポリシーを管理し、監査データをデータベース・サーバーからセキュアに収集、削除、保存できます

- データベース監査ポリシーは、一元的に管理し、構成できます
- 攻撃者が権限のあるユーザー・アカウントを侵害した場合、その攻撃者はデータベースの監査レコードを変更または破壊できる可能性もあります。監査データを一元管理されたセキュアなリポジトリに可能な限り迅速に移動すれば、攻撃者が攻撃の形跡を隠すことは困難になります
- 監査データは、科学捜査とコンプライアンスのために保存できます

Data Safeにより、データベースの機密データを検出できます

- 一般的なカテゴリの機密データはData Safeによって検出できるため、機密データの一部の列を誤って見落とすことはありません
- 検出後に機密データをData Safeによってマスクすることで、テスト・データベースの情報を保護できます

Data Safeにより、開発データベースとテスト・データベースの機密データをマスクできます

- アプリケーションを変更し、テストするには、開発データベースとテスト・データベースに本番環境と同様のデータが必要です。しかしながら、開発データベースとテスト・データベースは本番データベースと同じレベルでは保護されていないため、それらのデータベースでは機密データを置き換える必要があります
- マスキングでは、データを結び付けるために使用されている機密データの整合性を確保するために、外部キーと主キーのマッピングを説明できなければなりません

Data Safeダッシュボードでは、リスクを迅速に評価し、掘り下げて調査できます

- アラートを受信すると、ダッシュボードにはターゲット・データベースのデータ・セキュリティ・ステータスの概要が素早く表示されます
- ダッシュボードに表示された異常なアクティビティを詳しく調査して、具体的な問題を見つけ出すことができます

Oracle Data Safeではどのようなユーザー・エクスペリエンスが提供されますか。

Oracle Data Safeのコントロール・センターでは、ユーザー、機密データ、およびプラットフォームに関連するリスクの概要が提供されます。ユーザーは、コントロール・センターで入手できるさまざまな機能を使用して、ユーザーとセキュリティを評価し、機密データを検索し、監査ポリシーを管理し、テスト、開発、分析で使用されるデータをマスクできます。

当社は、セキュリティ制御の目的を達成できる柔軟性を実現しながら、データベース・セキュリティの複雑性を排除しようと尽力してきました。Data Safeのユーザー・インターフェースは直感的であり、インテリジェントなデフォルトを使用しています。たとえば、検出した機密データを本番データベースの複製である非本番データベースから削除しようとした場合、その機密データに対して、データ・マスキング技術が自動的に推奨されます。デフォルトがお客様のニーズを十分に満たしている場合、コードを1行も記述することなく、すべてのマスキング工程を完了できます。

Oracle Data Safeを使用してGDPRなどのコンプライアンス規則を遵守できますか。

欧州（EU）一般データ保護規則（GDPR）や、カリフォルニア州消費者プライバシー法（CCPA）などのコンプライアンス規則は、顧客のプライバシーを保護するために企業に要件を課しています。Data Safeは、機密データの場所の特定、非本番環境で使用される機密データのマスキング、監査データのセキュアな取得など、さまざまなコンプライアンス要件を抱えるお客様を支援します。

クラウド・データベースの顧客にとって、Oracle Data Safeの利点は何ですか。

クラウドでは、セキュリティの責任共有モデルが求められます。オラクルが提供する高度に自動化されたツールによって、このセキュリティの責任共有モデルにおいてオラクルが担う責任（ネットワークのセキュリティと監視、OSとプラットフォームのセキュリティ、データベースのパッチ適用とアップグレード、管理上の職務分離、デフォルトでのデータ暗号化）が遂行されます。お客様は、ユーザー権限などのデータのセキュリティ管理、機密データの保護、適切な監査ポリシーの設定に対する責任を担います。Data Safeでは、お客様がセキュリティ管理において担う責任を遂行できるよう支援するツールが提供されます。Data Safeは業界唯一の機能です。これらの基本的なデータ・セキュリティ機能をすべてのOracle Cloudのお客様が使用できるようにすることで、クラウド・データベース・セキュリティに新たな基準を打ち立てています。

可用性

Oracle Data Safeはどの地域で利用できますか。

Data SafeはAutonomous Databaseがサポートされているすべての地域で利用できます。

どのタイプのOracle Databasesがサポートされますか。

Oracle Data Safeは、以下のOracle Databaseで機能します

- Oracle オンプレミス・データベース
- Oracle Cloud データベース
 - 共有 Exadata インフラストラクチャ上の Autonomous Database
 - 専用 Exadata インフラストラクチャ上の Autonomous Database
 - Exadata DB システム
 - 仮想マシン上の Database Cloud Service
 - ベアメタル上の Database Cloud Service
 - Oracle Database on Compute

オンプレミス・データベースにOracle Data Safeを使用できますか。

はい。オンプレミス・データベースのサポートを2020年の半ばに追加しました。

Oracle Data SafeはCloud at Customerデータベース・デプロイメントに使用できますか。

Cloud at Customer データベースのサポートは現在、可用性に制限がある（LA：Limited Availability）プログラムとして利用できます。参加を希望されるか、詳細をお知りになりたい場合は、お問い合わせください。

Oracle Cloud Infrastructure（OCI）の無料トライアル・アカウントでOracle Data Safeは利用できますか。

はい。Oracle Data SafeはOCIの30日間の無料トライアル・サービスとして試用でき、すべての機能がサポートされます。いくつかの制限事項が適用されます。[詳細についてはこちらをご覧ください。](#)

開始するには

どのように使用を開始できるか教えてください。

Oracle Cloudでクラウド・データベースを使用しているお客様は、次の1～3のステップで容易に使用を開始できます。

1. Oracle Cloud Infrastructureのボタンをクリックして[Data Safeを有効にします](#)。
2. [ターゲット・データベースを登録します](#)。
3. [Oracle Data Safeのコンソールにログインします](#)。これでData Safeのすべての機能を活用できます。

Oracle Data Safeを使用する管理者はどのような種類のトレーニングを受ける必要がありますか。

特別なセキュリティの専門知識は事前に必要ありません。当社はData Safeにおいて、セキュリティ制御の目的を達成できる柔軟性を実現しながら、データベース・セキュリティの複雑性を排除しようと尽力してきました。Data Safeのユーザー・インタフェースは直感的であり、インテリジェントなデフォルトを使用しています。デフォルトがお客様のニーズを十分に満たしている場合、コードを記述することなく、Data Safeのすべての機能を使用できます。また、さまざまな機能について説明した包括的なオンライン・ヘルプもご用意しています。

Oracle Data Safeの使用

Oracle Data Safeを使用する上でのセキュリティの考慮事項を教えてください。

- Data Safeは、[Oracle Cloud Infrastructure \(OCI\)](#) によって提供される次世代のセキュリティを基盤に構築されています。
- 独立性を保つために、それぞれのお客様のデータは別々のデータベースに保存されます。お客様のデータベースとData Safeデータへのアクセスはすべて、監査対象となります。
- Data Safeのアカウントは、ターゲット・データベースに作成され、適切な権限が付与される必要があります。これは、Autonomous Databaseのお客様の場合、Data Safeにデータベースを登録する際に自動的に実行されます。
- 権限のあるユーザーのみが、Oracle Data Safeのコンソールにアクセスできます。アクセス権の範囲に応じて、ユーザーが1つまたは選択したデータベースでData Safeの特定の機能にのみアクセスできるように制限することも、すべてのデータベースでセキュリティ・データにアクセスできるようにすることもできます。
- お客様のデータベースに関するセキュリティ・データは、今後も常にお客様のみがアクセスできます。

Oracle Data SafeがOracle Cloudデータベースのサブスクリプションに含まれているとはどういう意味ですか。また、使用量の制限についても教えてください。

お客様がOracle Cloudインフラストラクチャの任意のクラウド・データベースの有料サブスクリバであれば、それらのデータベースの追加コストなしにData Safeを使用できます。ターゲット・データベースごとに無償で1か月あたり最大で100万件の監査レコードを保存できます。この上限を超えた場合は、追加コストが発生する場合があります。また、乱用を回避するために、いくつかの制限事項を設けています。詳しくは、[こちら](#)を参照してください。

監査データの保存方針を教えてください。

デフォルトでは、監査データは12か月間保存されますが、保存期間は必要に応じて変更できます。

どのようにOracle Data Safeのサポートを受けることができるか教えてください。

Data Safeには、Oracle Cloud Infrastructureの他のあらゆるサービスと同様に、完全なサポートが含まれています。Oracle Customer Support Identifier (Oracle CSI) を使用して、Oracle Supportポータル経由でサポート・リクエストを送信してください。

詳細情報

Data Safeについて詳しく知りたいのですが、どのように最新情報を得ることができますか。

詳しくは、Oracle Technology Network (OTN) のOracle Data Safeのページを参照してください。データ・シート、ホワイト・ペーパー、ビデオなど、さまざまな役立つ情報をオンラインで入手できます。

<https://www.oracle.com/jp/database/technologies/security/data-safe.html>

CONNECT WITH US

+1.800.ORACLE1までご連絡いただくか、oracle.comをご覧ください。

北米以外の地域では、oracle.com/contactで最寄りの営業所をご確認いただけます。

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oracle

 twitter.com/oracle

Copyright © 2020, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120

免責事項：本文書は情報提供のみを目的としています。マテリアルやコード、機能の提供をコミットメント（確約）するものではなく、購買を決定する際の判断材料にするものでもありません。オラクル製品に関して記載されている機能の開発、リリースおよび時期については、弊社の裁量により決定されます。